

必修

美しく生きるための教育学総合特論

この科目は、本学の建学の精神「徳をのぼす」「知をみがく」「美をつくる」と教育学の関わりを追究する必修科目である。教育学、教育内容・方法論、道徳教育、心理学、図画工作科教育法の各専門領域のそれぞれの立場から、教育に携わる者としての理想や目標となる「美しく豊かな生き方」とはどのようなものであるかを考察する。

教育課題実践演習

現代の教育課題やニーズについて、自身の学校現場、諸機関による調査、時事ニュース等を手掛かりに、その課題の所在や要因、背景等を多様な視点で受講者自身が分析、考察し、発表する。その後、受講者の司会によって話し合い、実践経験からの意見や理論的側面からの意見、国際的な動きや地域の状況など、多様な視点から議論し、担当教員が総括する。取り上げるのは「教育課程の編成」「学級経営・学校経営」「いじめの問題」「不登校」「発達障害・特別支援教育」「学校保健・学校看護・健康教育」に関する課題で、専門科目の「教育実践学特論Ⅰ～Ⅲ」や「発達支援教育特論Ⅰ～Ⅲ」の導入ともなる内容である。

特色ある科目

地域課題実践演習

本授業の目的は、地域社会と学校教育の関係性について実践的な理解をした上で、地域と有機的に機能し合う教育を実践できる能力を身に付けることである。地元地域の教育課題については教育委員会や指導主事等を招いて、また教育研究機関への訪問調査も予定している。保護者からの意見はPTA、少年の健全育成から見た課題や福祉からの視点は健全育成関係機関や福祉機関等の協力も得て、具体的な教育課題の実態を把握する。そのうえで課題解決のためのプレゼンテーションと議論・検討を行う、学生主体のアクション・リサーチ型演習授業である。

臨床・教育相談実践演習Ⅰ(生徒指導) 臨床・教育相談実践演習Ⅱ(カウンセリング)

臨床・教育相談分野に特化して、さらに深くかつ実践的に学修する。生徒指導・カウンセリングについて実践事例を取り上げながら理論等との関連を踏まえた議論を深め、児童生徒や保護者と信頼関係を築き、問題解決に向けて協働的に試行錯誤できる実践力を身につける。

開設科目一覧

| | 科目名 | 配当年次 | 授業形態 | 単位数 | 修了要件 |
|-----------------------|----------------------------|-------------------|------|-----|-----------|
| 専門基礎科目 | 美しく生きるための教育学総合特論 必修 | 1前 | 講義 | 2 | 7科目14単位以上 |
| | 教育課題実践演習 必修 | 1前 | 演習 | 2 | |
| | 地域課題実践演習 | 1後 | 演習 | 2 | |
| | 論文演習 必修 | 1後 | 演習 | 2 | |
| | 統計解析評価演習 | 1前 | 演習 | 2 | |
| | ICT応用演習 | 1後 | 演習 | 2 | |
| | 教育学特論Ⅰ(哲学・思想・史) 必修 | 1前 | 講義 | 2 | |
| | 教育学特論Ⅱ(教育方法・技術) | 1前 | 講義 | 2 | |
| | 発達脳科学特論 | 1後 | 講義 | 2 | |
| | 教育心理学特論 | 1前 | 講義 | 2 | |
| | 比較教育学特論 | 1後 | 講義 | 2 | |
| | 教育法制特論 | 1前 | 講義 | 2 | |
| | 専門科目 | 教育実践学特論Ⅰ(教育課程・評価) | 1後 | 講義 | |
| 教育実践学特論Ⅱ(学級経営・評価) | | 1後 | 講義 | 2 | |
| 教育実践学特論Ⅲ(学校経営・評価) | | 1後 | 講義 | 2 | |
| 発達支援教育特論Ⅰ(発達障害) | | 1後 | 講義 | 2 | |
| 発達支援教育特論Ⅱ(障害児教育) | | 1後 | 講義 | 2 | |
| 発達支援教育特論Ⅲ(学校保健・学校看護) | | 1後 | 講義 | 2 | |
| 健康教育特論(運動と栄養) | | 2後 | 講義 | 2 | |
| 教育実践学演習 | | 2前 | 演習 | 2 | |
| 発達支援教育実践演習 | | 2前 | 演習 | 2 | |
| 臨床・教育相談実践演習Ⅰ(生徒指導) | | 2後 | 演習 | 2 | |
| 臨床・教育相談実践演習Ⅱ(カウンセリング) | 2前 | 演習 | 2 | | |
| 演習及び特別研究 | 演習Ⅰ | 1前 | 演習 | 2 | 4科目8単位以上 |
| | 演習Ⅱ | 1後 | 演習 | 2 | |
| | 特別研究Ⅰ | 2前 | 演習 | 2 | |
| | 特別研究Ⅱ | 2後 | 演習 | 2 | |

教育実践学演習・ 発達支援教育実践演習

「教育実践学特論Ⅰ～Ⅲ」、「発達支援教育特論Ⅰ～Ⅲ」、「健康教育特論(運動と栄養)」を学んだ上で、自分が解決したいと考える課題に対して学生それぞれが3回の実践にチャレンジ。解決策の立案からその評価・分析、さらなる改善策の構築を教員そして同時に受講している仲間たちとも経験交流、意見交換することで新たな可能性が拓ける。

① 解決策の立案・
学校・施設等
フィールドでの実践

③ 改善策の構築 ② 評価・分析

※上記サイクルを3回回り
ステップアップを図ります

修了要件
および
履修方法

専門基礎科目
14単位

+

専門科目
8単位

+

演習及び
特別研究
8単位

専門基礎科目から14単位以上、専門科目から8単位以上、演習及び特別研究から8単位以上を修得し、加えて教育学研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格することによって学位を取得することができます。